

令和5年度 東京都立八王子北高等学校 学校経営報告



スクール・ミッション

生徒・保護者及び地域の期待と信頼を踏まえながら、確実に進化を続ける中堅校として、変革する未来に逞しく生き抜く人材を輩出するために、自ら学び、考え、挑戦する態度を迫及する探究手法を身に付け活用し、社会貢献意識を持って実行し、自己実現を粘り強く図れる、協働力のある人間性豊かな人材を育成します。

1 教育目標

本校の教育目標を踏まえ、地域の信頼と期待に応える中堅校として、グローバル社会で社会貢献し自己実現を図れる、人間性豊かな人材を育成するために、次の4つを教育目標とする。

- (1) 自主自律
- (2) 文武両道
- (3) 地域貢献
- (4) 挑戦 ～未来に向けて グッド トライ～

2 スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

新たな時代にたくましく生き抜く人間力の育成を目指し、具体的に次の3つの力を育成する。

- ① 探究力を備え、課題解決に臨める力
- ② 失敗を恥じることなく粘り強く自己実現に挑戦する力
- ③ 良き社会人として協働し、社会貢献に取り組める力

(2) カリキュラム・ポリシー

- ① 少人数制授業・習熟度別授業を展開し、「わかる」を実感させる授業で、基礎学力の定着から「考える」を大切に「できる」までの確かな学力を育成する。
- ② 1、2年次は全員で幅広く教科を学習し教養を確実に身に付け、3年次の自由選択科目で自己実現を図るための学力を育成する。
- ③ 全教育活動において、探究的学習手法を学び、失敗を恥じることなく課題解決のために自ら主体的に考える探究力を身に付け、粘り強く自己実現を図れる人間力を育成する。
- ④ 学校行事や部活動で培われる思いやりや規範意識を重視し、生徒同士がチームとして一体となり文武両道を実践しながら、生徒の自主自律の精神と協働力を育成する。
- ⑤ 探究学習において地域との交流・連携をこれまで以上に深め、達成感や自身の可能性を実感することにより、自尊意識育成する。

(3) アドミッション・ポリシー

本校では、次の項目に当てはまる生徒の入学を期待する。

- ① 学習成績が良好で評定の高い教科をもち、進路実現に向けて努力できる生徒。
- ② 本校入学後の学習活動や部活動等の目標を明確にもち、挑戦する意欲的な姿勢をもてる生徒。
- ③ 基本的な生活習慣を身に付け、社会貢献への姿勢と意識の高い生徒。
- ④ 部活動や中学校以外の活動に原則3年間積極的に取り組み、入学後も部活動を続け、学校生活において協働できる生徒。

3 グランドデザイン

目指すべき生徒の将来像（20年後の生徒の姿）

持続可能で創造的な福祉社会の担い手を育成するために自分の能力を生かしてゆける人間として成長する。



見つけられる力（育成すべき資質・能力）

- (1) 知識・技能・身につける学力
高校上位で、大学受験に対応できるような学力を身につける。
- (2) 思考力
論理的思考を身に着け、実際の行動と一致できる。
- (3) 判断力
行動の優先順位をつけ、他者との間で調整する能力。
- (4) 表現力
自分の判断や思考を使って他者を説得し、行動できる。
- (5) コミュニケーション力
クラスの意見をまとめ一つの方向性を出せる。
- (6) 規範意識
学校全体のルールを考え学校全体で共有できる。
- (7) 課題解決力
進路実現に向けて具体的な進路を探究する。
- (8) 協働性
他者への想像力を育み、高度な協同性を發揮できる。

4 目指す学校

本校の教育目標及び地域の期待を踏まえ、地域の信頼と期待に応える中堅校として、変革する未来に身に付けた探究手法を活用し、社会貢献し、自己実現を図れる、人間性豊かな人材を育成する。

(1) 生徒の可能性を伸ばし、進路実現を図る学校

健全で明るい校風の中で、文武両道に励み、「わかる」を実感させる授業で、基礎学力の定着から「考える」を大切に「できる」までの確かな学力を育成し、生徒の個々の可能性を伸ばす進路指導を丁寧に行い、生徒の希望する進路を実現する学校にする。

(2) 学校教育活動により、自主自律を育成する学校

学校行事や部活動で培われる思いやりや規範意識を重視し、生徒同士がチームとして一体となり部活動と学習の両立を実践しながら、生徒の自主自律の精神を育成する学校にする。

(3) 地域貢献を実践し、自尊意識を高められる学校

学校地域との交流・連携をこれまで以上に深め、達成感や自身の可能性を実感することにより、自尊意識育成する学校にする。

(4) 新たな時代にたくましく生き抜く人間力を育成する学校

生徒が、積極的に挑戦する気概を醸成し、失敗を恥じることなく課題解決のために自ら主体的に考える探究力を身に付け、粘り強く自己実現を図れる人間力を育成する学校にする。

5 5 今年度の数値目標の達成状況に基づく「成果」と「課題」

【 】内は令和5年度まで1～5年間の実績値推移で赤字が今年度の結果

目標1 計画的な業務遂行により時間外勤務時間45時間以上 0人

【45時間以上 5. 5人→6人→7人→5人→**3人**】

【80時間以上 1. 3人→3人→0人→5人→**3人**】

【100時間以上 0. 5人→0人→0人→0人→**0人**】

(成果)

- 91.4%の教職員が超過勤務（月80時間以内）以内であり、ほぼ計画的な業務の遂行を行うことができた。
- 始業時刻を8時40分から8時50分に変更することにより、生徒及び教職員が、余裕を持って授業に取り組めるようになった。
- 朝の生徒欠席連絡について、電話業務から学習支援コンテンツを活用したメール連絡に変更することで、朝の電話業務の縮減を行った。
- 学校ポータルを活用し、職員会議資料をペーパーレス化することで、資料印刷や配布業務を無くし、業務の軽減を図った。

(課題)

- 学校閉庁日の設定や男性教員の産休取得、短期介護休暇、出産支援休暇、育児参加休暇、子ども介護休暇等を取得できる環境整備をさらに進める。そのため、担当業務の平準化や部活動顧問の複数配置を推進する。

目標2 入学者選抜の最終応募倍率 推薦2.85倍 学力検査1.32倍

【推薦：3.7→3.5→2.92→3.2→2.82→**2.40**】

【学力検査：1.39→1.35→1.30→1.04→1.30→**1.15**】

(成果)

- 全都的な中学生の減少の波や私学無償化の影響下にありながら、定員を超える本校志望者を確保した。

(課題)

- 今後の人口減少を見据えた上で、さらに魅力のある学校としてのPRに注力し続ける必要がある。
- 地域に根差した学校（ローカル）と国際的な素養を育む学校（グローバル）を融合させた柱を確立する。

目標3 広報活動を充実させ、学校説明会の来校者数（中学生、保護者）2,000人以上

【565人→1,153人→2,431人→1,822人→**2,045人**】

(成果)

- 広報活動の種類や範囲の幅を広く設定し、かつ特定地域に重点を絞って実施した成果が数字に表れた。
- 管理職による塾訪問（112校）や教職員による中学校訪問を組織的に実施し、本校の特色を中学校や塾へPRすることができた。
- 「探究」を前面に押し出し、「挑戦」できる学校をPRすることで、一定数の支持を確立した。
- 探究部の活動をうまく、広報活動に結び付けることができた。
- 学校見学会や学校説明会において、司会等の運営を生徒が中心となって行い、生徒と教員が一体となって広報活動を展開した。

(課題)

- 広報活動や探究の活動での人的負担の偏りがあるので、より学校全体としての取組みとしていく必要がある。
- 部活動を体験・見学する生徒が例年に比べると60名ほど減少したため、部活動の活性化PRが必要である。
- 授業公開や学校説明会の実施形態について、再検討していく必要がある。
- 次年度は、生徒会だけでなく、部活動等の他の多くの生徒にも学校見学会での施設見学等の案内役に協力してもらうことで、より「生徒」を前面に出し、学校をPRして行きたい。

目標4 本校ホームページ・Twitterの充実によりアクセス回数600,000回以上

【80,000回→170,000回→110,000回→609,578回→**685,787回**】

(成果)

- 校長やICTリーダー、部活動顧問が連携して、学校ホームページの更新や学校X（旧Twitter）の配信を行った。
- 校長X（旧Twitter）による配信は、「いいね」ツイート2,000回以上を目標に、3,412回を大きく上回り、リアルタイムで学校の様子を伝えることができた。

(課題)

- 先進校視察により、福岡女子商業高校では、「T i k T o k」を効果的に広報活動に利用していることを学んだ。今後、本校でも中学生や高校生向けの広報配信として、新たなSNSコンテンツ「T i k T o k」の配信を充実させ、広報活動に活かすことで入試募集倍率の向上を目指す。
- ICTリーダーが一手に学校ホームページやTwitterの管理を担っており、PC委員会を組織的に運営していくことが課題である。

目標5 地域と連携した探究学習活動 11回

【9回→11回→**15回**】

(成果)

- 今年度、探究活動の推進による功績により「令和5年度東京都教育委員会職員表彰（団体）」を受賞した。
- 例年の活動に加えて、探究部の活動が増え、目標数を大きく超えることができた。地域とのつながりも探究部の活動を通して、強めることができている。また、八王子コンソーシアムにおける発表会では大学生との交流も生まれ、高大連携での活動をすることができた。
- 新たに国際探究（グローバル）に取り組んでいくため、大韓民国・釜山外国語大学との国際交流連携協定を締結した。これにより、次年度、釜山外国語大学主催の短期語学研修の実施を目指す。また、令和6年度入学生（47期生）より、第二外国語として韓国語（ハングル）を新教育課程に編成した。

(課題)

- 探究活動の中の防災教育の活動が進めきれずにいた。高校生という立場、学校という立場で有事の際には自助はもちろん、共助をする人材を育成していかなければならない。学校に何があるのが、有事の際にはどのような動きをすればよいのか、探究教育の中で次年度は指導していく。

目標6 2学期期末考査における「思考力」を問う出題割合100%

【75.1%→98.0%→**97.6%**】

(成果)

- 新教育課程の定着により定期考査での「思考力」を問う問題を意図的に各教科が設定できるようになった。

(課題)

- 思考力を問う問題のバリエーションを増やし、多面的に思考力を評価できるようにすることが課題である。

目標7 平日家庭学習1時間以上の割合 全学年50%

【20.6%→21.5%→37.9%→**22.6%**】

(成果)

- スタディサプリの導入により、家庭学習教材を提供することができた。
- 考査前などは比較的勉学に取り組むことができた。

(課題)

- 目標数値に届くことができなかった。大学進学者が増えており、学進学希望者に対しては、3学年に向けて勉強に取り組む姿勢を定着させたい。
- 特に2学年での「中だるみ状態をいかに小さくしていくか、勉強をあきらめない生徒をいかに増やしていくか」が課題であり、生徒のモチベーションを維持する取り組みも必要である。

目標8 夏期・冬期講習会の充実 40講座・参加人数(延べ)300名

【37講座・参加人数(延べ)224名→35講座・参加人数(延べ)158名】

(成果)

- 進路指導部が中心となり、講習会の「見える化」及び「学校全体の雰囲気」を向上させた。
- 3学年主導による大学一般受験生に対し、「勉強合宿」を計画し、1日10時間の学習を5日間行った。その結果、GMARCH及び日東駒専の合格者を増加させ、進学実績を伸ばすことができた。

(課題)

- 講座数は、基礎講座から受験対策講座、資格取得講座等、幅広く講座を設定することができた。しかし、参加人数が昨年より減ってしまった。今後、生徒を積極的に参加させるための手立てが必要であり、進路指導部や教科だけでなく学年からの後押しが必要である。

目標9 3年間を見据えた進路指導により

(ア) 大学・短大進学者数80人以上

【49人→58人→65人→74人→94人】

(成果)

- 94名(大学87名、短大7名)
- 3年間を見据えた計画的な進路指導により一般受験による合格者を増やすことができた。

(課題)

- 受験科目の決定が遅く準備不足のまま受験する生徒が一定数いる。
- なるべく早い段階で志望の学部学科や受験科目を決定させる。

(イ) 就職率(就職希望者に対して)の100%維持

【100%→100%→100%→100%→100%】

(成果)

- 本校においては、進学希望者の増加により、民間就職希望者自体が減少しているが、公務員希望の生徒に対して、夏期講習での試験対策を充実させ、4名合格させることができた。

(課題)

- 卒業見込みの立たない生徒への早期対応が課題である。

目標10 資格取得

日本漢字能力検定: 準2級 5名、2級 1名

【3級 5名、準2級 10名、2級 1名→3級 6名、準2級 3名、2級 1名】

(成果)

- 2級の合格者を出すことができた。
- 検定試験に向けて第1回、2回ともに補講を2日実施し、それぞれ2人参加した。

(課題)

- 受検者が徐々に減っているため、勉強することへの意識づけや漢検受検のメリットをアピールすることで、受検者を増やす。
- 受験者数に対する合格者数が少ないため、合格に向けた勉強を補講等で促す。

実用英語技能検定: 3級 8名、準2級 16名、2級 2名

【3級 4名、準2級 16名、2級 2名→3級 3名、準2級 11名、2級 2名】

(成果)

- 英語科として、校内受検を1年に2回開催し、英検受検を促した。英検1次対策としては、夏期講習で全学年対象に3級、準2級、2級講座を実施、また2年生の論理表現Ⅱの授業で準2級対策を行った。さらに、1次試験合格者に対

しては、英語科教員全身体制で2次試験対策を個別に行った。3級、準2級では、目標人数に達しなかったが、2級は、合格者2名と健闘した。

(課題)

○本校は、指定校推薦入試、総合型推薦入試を希望する生徒がほとんどを占めている。総合型推薦入試では、準2級以上の資格を持っていると、入試で英語の点数に得点換算や小論文を免除される大学もある。

さらに、2級の資格を持っていると、一般入試でも得点換算され、今年度は2級合格の利点を活かして、合格した生徒が多く見られた。そのため、生徒に早い段階から、英検合格の大学優遇措置について告知し、準2級以上を目指すよう、励ましていきたい。来年度も、夏期講習、授業等で英検対策を引き続き行い、準2級以上の人数を増やしたい。

世界遺産検定：4級 6名、3級 2名、2級 1名

【4級 1名、3級 1名、2級 0名→4級 0名、3級 2名、2級 1名】

(成果)

○歴史や文化に親しみ、教養を深める生徒の支援をすることができた。

(課題)

○受験者の増加が課題である。啓蒙活動に力を入れていく取り組みが必要である。

防災士：15名

【19名→5名】

上級救命講習：200名

【200名→198名】

(成果)

○今年度、応急手当の普及に係る功績として八王子消防署長より「救急業務協力者等に対する感謝状」を贈呈された。

○防災士の受験者が減少してしまった。アナウンスの方法に工夫が必要だったのではないかと感じた。

○防災士の受講受付が例年より早まり、本校の担当者も変わったため生徒へのアナウンスが遅れてしまった。

○上級救命講習は1学年が全員受講。共助への意識が高まった。

(課題)

○業務の引継ぎ方法を考え直す。

○掲示物だけでなく、生徒への周知方法を工夫する。

○上級救命講習は引き続き行っていく。

目標11 活動加入率80%

【81%→74%→79%→78%→78%】

(成果)

○1学年の全員部活動加入もあり、比較的に高い加入率を維持できている。

○2学年以降の加入率が伸びていない。

(課題)

○生徒の実態に合った新たな部活動を検討する必要がある。

目標12 SCやYSWと連携した教育支援を充実させ、中途退学生徒 3人以下

【7人→1人→0人→1人→1人】

(成果)

○SCやYSWと連携を取りながら中途退学者を3人以下にすることができた。

(課題)

○転学ではなく、退学の道へ進む生徒がいたことが課題である。本校で卒業をできる生徒が一人でも多く増えるよう、常に目配りをし、支援していきたい。